

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400602	事業の開始年月日	H17年9月1日
		指定年月日	H17年9月1日
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	(〒246-0015) 横浜市瀬谷区本郷3-25-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		エツ数	2エツ
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・個々の希望に合わせたに日常支援
- ・毎月の行事
- ・職員に対してのスキルに合わせた研修の充実 外部、内部共に
- ・ケアプラン内容 ケアカンファ（本人やご家族とのカンファレンス）
- ・ご家族を巻き込んでのご利用者を支援すること

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月18日	評価機関 評価決定日	平成23年度5月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

このホームは相鉄本線瀬谷駅から徒歩で6分の場所にあり、環状4号、県道瀬谷・柏尾線が近くを通っているのを車を利用していても便利である。周囲は畑が点在する静かな住宅地で環境的にも恵まれている。専用の建物は開口部が広く、室内は明るく、居間、廊下、トイレ、浴室等のスペースも十分で、内外の清掃も行き届いている。

#### 【理念とケア】

「私達は利用者様が笑顔で過ごせるようところに寄り添うケアを実践する」以下4項目の理念に加え、大切にしていること「社会・地域との関わりを・・・」以下5項目を掲げ、職員の連携も良く、互いに信頼し一体となって利用者一人ひとりの持てる力を、最大限活かしたケアの実践に努めている。行事の折には法人の理解もあり、安全を最優先に考えた人員配置を行っている。

#### 【医療と防災 安心・安全】

協力医療機関の医師による月2回の定期と緊急時の往診のほか、かかりつけ医を受診している利用者も数名いる。訪問歯科医や緊急時に受け入れ可能な法人の病院の支援もある。看護師による毎週の健康管理、訪問マッサージ師の指導による機能維持や回復への支援、そしてラジオ体操も日課にしている。年2回の防災訓練では、テーマを決め、近所の皆さんも参加して実施し、利用者の避難も手馴れてきている。非常時には近隣の支援や近くの職員の応援体制があり、非常食や水等の備えもある。

#### 【地域とのかかわりや行事】

自治会に加入し、神社の祭りやあじさい祭り、敬老会等に利用者に参加している。行事にも力を入れており、ホームで行うイベントには職員が案内のピラを配り、地域の多くの皆さんが来訪している。近くの小学校の運動会に招待され、作品展にも出品している。自治会館でのキャラバンメイト講座には管理者が講師役となって協力している。歌や紙芝居、三味線・尺八・ハワイアン等の演奏、散歩や傾聴でのボランティアの支援も利用者は楽しみにしている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームこころ
ユニット名	やすらぎ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を玄関先やフロア内に掲示又朝の申し送りにて理念を全員で復唱し確認しあっている。	「私達は利用者様が笑顔で過ごせるようここに寄り添うケアを実践する」以下4項目の理念に加え、大切にしていること「社会・地域との関わりを・・・」以下5項目を掲げている。職員が一体となって、利用者に対する礼儀、話し方などに留意し、利用者の一人ひとりの持てる力に沿ったケアを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事（納涼祭・忘年会、敬老会）と通じて地域の方をご招待したり、近隣小学校の運動会や作品展など参加。作品も展示している。	自治会に加入し、利用者は神社の祭りやあじさい祭り、敬老会等に参加し、ホーム主催の行事には近隣の方の来訪もある。近隣の小学校の運動会に招待され、作品展にも出品している。自治会館でのキャラバンメイト講座にも協力している。各種ボランティアの支援もある。	地域との各種交流については、管理者を始め職員の皆が、より高い理想をもっている。ホームで蓄積されたノウハウを地域に発信することも考えられるので、地域の高齢化が進む中で、気軽に世間話や相談に立ち寄れる状況を作りたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が定期的に行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度の運営推進会議を実施その中で、地域の方からの情報やアドバイスを頂き、防災訓練などの参考にしている。	会議は地域や区の関係者が参加し、偶数月に開催されている。ホームからは細部にわたって状況報告を行い、参加者からは防災関係、近隣の貴重な情報をもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き実情やケアサービスの取組みを伝えて意見交換している。	区職員向けにキャラバンメイト講座の講師として協力したり、区担当者や地域包括支援センターにホームの状況報告を定期的に行っている。また区役所による次年度の瀬谷区内グループホーム協議会の立ち上げにも協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の参加。内容を他職員に伝え身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束委員会を大体3ヵ月毎に開催し、委員が中心になって「身体拘束をしないケアの実践」を職員全体に働きかけている。玄関、ユニットの出入り口は施錠していない。自由に外出する方は、家族と諮り、GPS機能付の携帯電話で事故防止に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者、高齢者への虐待がないよう虐待に関する研修会にも参加しその内容を伝え話し合い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修に参加学ぶ機会をもち理解を深めている。又、ご利用者の後見をたてたこともある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に全ての内容を読みあげその都度詳しい説明を行っている。又改定時には個々に改定する事について説明し、了解いただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書やアンケートの実施により意見を頂き反映させている。	家族会は設けてないが、3ヵ月毎に開かれるケアカンファレンスには必ず家族にも参加を得て、介護計画の内容の他、生活全般について意見や希望を聞いている。また、「食事に関するアンケート」をサービス向上委員会が中心となり実施し、本人や家族の意向を聞いて運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、フロア会議、又はアンケートや面談などで意見をきき反映させている。	毎月の全体会議やユニット毎のフロア会議は職員の意見反映の場にもなっている。最近、職員の意向により加湿器を購入した。また、法人の年2回の人事考査がある。必要があればアンケートを行い、自己評価と合わせ職員相互の評価も導入されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	査定基準に従って個人評価、全員評価を行っている。又個々のスキルに合わせた研修会に参加させるなど向上心をもてるようにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアルの整備に努め研修や勉強会を進める努力をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他GHとの交換研修を行い情報を交換し意見を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談で関わりを持ち本人の不安や訴えを聞き、入居後早く馴染めるように関わっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には十分に不安な部分に関しては聞き、話しをお聞きするようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前、入居希望であったご利用者に対し、体験入居を行ったが本人の状況を見極め在宅のサービスを進めた方もいた。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で自己決定できる環境作りと一緒に過ごす時間を多く持てる支援をしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に要望を聞きながら相談し本人を支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出には制限無く一緒に外出することもある。又、携帯電話の持ち込みも可能である。	馴染みの美容院や近所への買い物、家族との外食や墓参、電話の利用や年賀状を書く等、関係継続の支援と共に、利用者の状態を踏まえ、できるだけ持てる力を発揮できるケアに配慮した支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を配慮し孤立せず一緒に過ごせるように考慮している。又孤立しがちなご利用者のために他入居者との座談会を設け話せる機会を提供している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡を取り再入所された方もいる。また退所後他施設に入居した家族と連絡をとったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を伺い希望を出来るだけ取り入れるようにしている。困難な場合は言動などにより気持ちを考え支援している。	入居時のアセスメントで本人や家族から健康面、生活歴、好み等を把握して、ホームでの生活に活かしている。日常的な観察、連絡ノートへの記録を徹底させ、情報の共有を図り、利用者の思いに添った支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや面接時は今までの状況を確認し現在へつなげている。仏壇などを部屋に置き信仰を続け外部の会にも参加している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のできることを見極め支援している。自己表現でにくい方に関しては現状を把握し持っている力を見つけ継続できるようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回の計画書の評価を行い、次に出てきた問題点などについて家族も参加しカンファレンスを行う。その際には要望希望をきき計画書を作成。	個人のケース記録に日々の様子を記録し、毎月のケアカンファレンスに基づき、3ヵ月に1回は本人や家族の意向を確認し、ケースによっては関係医師の指導を踏まえて、介護計画を作成している。急変時などに必要があれば見直しを適宜行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に行ったこと（サービス内容含む）状況などを個人記録に記録し情報を共有している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携に努め緊急時の受け入れ先が可能な医療機関、訪問診療、訪問歯科、の協力医を確保している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し地域のお祭りに参加、近隣小学校の運動会、作品展へ出かけている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明を行い、入居後の医療機関を希望の通り定めている。	入居以前からのかかりつけ医を継続して受診している利用者は数名おり、都合により通院にはほとんどの場合ホームの職員が付き添っている。その事後には必ず家族に報告し、情報を共有している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への連絡先を明示しておりいつでも相談が出来るようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の医療機関など緊急時に受け入れ可能な体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に対する指針を契約書に明記している。又終末期医療に関する同意書を頂いている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は契約書に明記され、家族に説明し同意を得ている。当初、職員には戸惑いがあったが、方針や思いの共有化に努め、あくまで日常のケアの延長と捉えることで、徐々に慣れつつある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>防災対策委員会を設置しその中で応急手当の方法など実施していく予定である。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回利用者が自治会の方を招いての自主避難訓練を実施している。運営推進会議で防災について話し合われている。</p>	<p>年2回の防災訓練では、「夜間想定」「消火器の使用」等のテーマを決め、近隣の方と連携して実施し、利用者の避難は手馴れてきている。夜間の非常時には近隣の支援や近くの職員の応援体制もある。外倉庫には非常食や水の備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録や個人情報に関わる文書は施錠できるところに保管してある。	掲げる理念の一つに「～謙虚な気持を忘れず人としての礼儀を大切に支援する」とあるように、利用者の個々の生活やプライバシーに配慮している。利用者の意見を尊重して自己決定を大切にして支援している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者の話を聞き希望を言いやすくするように努めている。利用者の意思を尊重し自己決定に繋がるよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。利用者が自発的に掃除をされたりしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面時に、化粧をしたり入浴後にクリームをつけたりするなどその人に合わせた身だしなみが出来るように支援している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守り、会話をしながら利用者と一緒に食べている。又、出前や外食ご利用者の食べたいものなど聞きながら作る時もある。	献立は食材業者の食材やホームの菜園で採れた新鮮な野菜を取り入れている。週2回の夕食は利用者の好みのメニューにしており、時にはハンバーガーやカップラーメンの希望もある。訪問時の昼食はお好み焼きで、利用者は調理や準備等できることを担当し、職員と和気藹々賑やかな食事風景であった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の献立と食材を主に利用し、栄養バランスの良い食事を提供している。一人ひとり食料や水分量を健康チェック表へ記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の利用者に応じた口腔ケアの支援をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時には健康チェック表に記入し一人ひとりの排泄パターンを掴みそれを基に誘導、声掛けを行っている。	排泄は健康チェック表に記録して、そのパターンを把握して、定時や状態を見て声掛けしてトイレ誘導している。このことにより、入居後にオムツが取れ、失敗の回数が減った利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方は、牛乳やヨーグルトの提供や、リハビリを兼ねた運動などを促している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者と相談の上で本人の希望に沿った入浴日を設けるなど個々に合わせた入浴方法を行っている。	毎日入浴している人、入浴嫌いの人と様々であるが、週2回以上を目標にしている。自立入浴が可能な方、職員2名の介助が必要な方がいる。シャワー浴は冬でも温度管理を十分にして適宜利用している。バラの花びらやユズの湯は利用者には喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに応じて日中の運動や昼寝など個々に合わせた支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があったときには、服薬表に目的、用法要領を記入し症状の変化の様子観察し薬への理解の周知と変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や経験から調理への参加、食器拭き、洗濯物たたみ手芸への参加をして頂いている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、レストラン等へ外出している。天気の良い日などは可能な限り外出の支援をしている。	散歩や買い物等の外出は天候や利用者の状態を見てできるだけ支援している。法人の理解があり、人員配置を手厚くし、月1~2回、花見、イチゴ狩り、みかん狩りなどの行事や外食の機会を楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じて本人のお金を自己管理し出納帳の記入をしていただくなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に応じて本人の希望によりご家族へ電話をされたり手紙のやり取りが行えるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口や洗面台などに花や季節を感じるものが絶えず置いてあり、居間には季節に応じた作品などがあり季節を感じやすくしている。	専用の建物内は落ち着いた色調で、廊下、トイレ、浴室等のスペースは十分に清潔である。居間は採光も良く明るい、雑飾りや季節を感じさせるものが飾られ、花瓶や観葉植物が置かれ、行事の写真や作品等が随所に展示されてあった。加湿器が置かれ温度や湿度にも心配りされていた。また、職員の名前と顔写真が貼られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者の能力や希望に応じてフロアの席を決めており、思い思いに過ごされている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、利用者やご家族の意見を尊重し相談しながら、家具の持ち込み、配置を行っている。	居間の入り口には氏名や目印が貼られている。6畳の広さがあり、クローゼットがはめ込みになっているので、より広く感じる。テレビ、整理ダンス、椅子、仏壇、家族の写真、鏡台、時計、カレンダー、ぬいぐるみ等の馴染みの品々に囲まれ、居心地よく生活できるように工夫されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレに目印を設置し利用者に分かりやすく、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		